

## ～国公立大学の出願迫る！個別入試に向けて頭と手をフルに動かそう～

3年生は共通テストが終わりました。お疲れ様でしたと言いたいところですが、心を鬼にしています。3年生のほとんどはサッカーワールドカップの大会に例えると、現在地点は予選リーグが終わった所です。これから組み合わせを中期日程、後期日程を含め決定し、決勝トーナメントに向けて万全の準備をしていきます。いわゆる、個別入試への準備です。だから、ここからが本番と言っても過言ではありません。授業を中心に学んだ内容を「**自学自習**」を通して自分の頭と身体にインプットし、入試本番で頭を捻りながら解答用紙にアウトプットするという行動をしていくわけです。以前にも述べましたが、自分の頭で物事を考える癖が身についている生徒はより高い目標を達成し、人間的にも間違いなく成長していきます。受験が終了するまでの期間は一番、受験学力が伸びる時期です。それは、これまで学んだ内容を自分の頭で考える時が一番、思考力などの学力が上がっていくからです。自分が集中できる、**自学自習の場を確保し、最後の最後まで目標を達成する為の強い意志と情熱を持ち続け、解答用紙に表現してください。もちろん、そのために自分が頑張りきれない状況、つまり、本当に納得できる出願をすることが重要です。安易な妥協は君たちの頑張りを無駄にしてしまうので、しっかりと考えてください。**

さて、今回は共通テスト後に各業者が受験生の自己採点をもとに提示した志望動向をもとに再度、分析した結果を報告したいと思いますので、3年生はもちろん、1・2年生の参考にもなればと思います。もちろん、ここからも出願の変動が起きますが、君たち西高の受験生には誇りを高く持ち、「**天下第一関**」を念頭に置き、**最後まで粘り強くチャレンジして欲しい**と心から願っています。保護者と相談しながら、しっかり自分と向き合い、今の自分が「**絶対に譲れないものは何か**」を軸に自己決定ができる人になって欲しいと思います。納得のいく検討と健闘を期待しています。我々は最後の最後まで君たちの応援と支援をしていきます。

### 1 全体的なトピックス

出題傾向に大きな変化は見られず、複数の資料を提示し、日常や学習場面を中心に問題解決をテーマとした出題となっており、それぞれの教科固有の「思考力、判断力を問う」というコンセプトは継続していました。しかし、問題文量は昨年より増加し、問題構成も複雑で生徒にとってはタイムプレッシャーがさらに厳しくなったようです。ところで、ベネッセが受験生38万7千人から回収した自己採点による予想平均点5教科8科目文系は532点で前年より24点。5教科7科目理系で544点と前年より31点それぞれ上昇しています。また、理科②で得点調整が実施されました。これらについては、18日に各教科の中間発表、20日には得点調整が、それぞれ大学入試センター ([https://www.dnc.ac.jp/news\\_all/houdou.html](https://www.dnc.ac.jp/news_all/houdou.html)) から発表されましたので、そちらを確認してください。次に難関国立10大学の出願予定者前年比(以下、前年比と表記)はベネッセのデータネットで106を示し、理高文低の傾向が継続しています。国立大学全体では特に医、薬、農・水産の志望者が増加していますが、共通テストの判定結果が、業者間でかなり離れている募集単位が多くありますので注意してください。志望校検討の際には、度数分布から合否混在ゾーンを複数年分析することや**候補大学の過去問を閲覧し、解答する**などを判断材料としてください。ただし、何度も言っていることですが、**君たちの受験学力はこれからが一番伸びていきます**。だから、現時点ではなく、1ヶ月後の自分を期待しながら検討することをお願いします。

### 1 難関大学の動向

#### ① 国立大学(東大、京大、北大、東北、東工大、一橋、名大、阪大、神大、九大の難関10大学について)

・**東大**は昨年度入試で志願者が4年ぶりに増加しました。秋の模試まで難易度レベルに変化は見られず、志望指数はやや減少傾向でしたが、出願予定者は概ね前年並みとなっています。

(次ページへつづく)

科類別では文Ⅲで前年比が低下、理Ⅰでやや増加、理Ⅱがやや減少傾向です。第1段階選抜通過ラインは、ベネッセが文Ⅰ615点、文Ⅱ640点、文Ⅲ615点、理Ⅰ理Ⅱはともに695点、理Ⅲ750点を予想していますが、科類間の志望変更を考慮しながら判断する必要があると思います。

- ・**京大**は模試段階では理系を中心に志願者が増加していましたが、現在はほぼ全学部で出願予定者が増加しています。出願予定者の分布では得点率80%以上の成績層が文理ともに増加しています。今後の志望変更に注意を払う必要がありますが、特に工は学科別で合格者平均点、最低点とともに高いのは情報学科、低いのが工業化学科で両者には総合得点で80点以上の開きがあるので、出願時には第2志望をどう決定するかが重要です。また、得点開示を分析すると理は数学と理科、薬は国語と英語が得意な生徒が合格している傾向が見られます。
- ・**九大**は河合塾の共通テストリサーチによると全体の出願予定者数は前期5,648人で前年比104、後期は2,421人で前年比113となっており人気上昇しています。前期の動向を学部別で見ると、文系では教育が前年比125と隔年現象を示しています。逆に経済は前年比78と大幅に減少、共通テストボーダー得点率（以下、ボーダーと表記）も74%と易化を予想しています。文理融合の共創は易化傾向を示しています。理系では工が全体的には前年並みですが、学群を細かく分析すると差があり、ベネッセでは電気情報のⅠ群が前年比105でやや増加。船舶海洋、地球資源システム、土木を含むⅣ群が前年比86となっています。材料、応用化学、化学、融合基礎（物質材料コース）を含むⅡ群と建築のⅤ群は前年比94、入学時に特定の学科または学科群を選択しないⅥ群は前年比95、融合基礎、機械、航空宇宙、量子物理を含むⅢ群は前年比97とやや減少傾向となっていますが、難易度に変化はなさそうです。芸術工の志願予定者数は前年並みですが、募集単位別では差があるので注意してください。医学部の医はベネッセのボーダーで88.9%と高く、難化が予想されています。保健学科の専攻別志願予定者は、看護が上昇、放射線は前年並、検査は減少傾向です。難易については看護が高得点者の減少により易化、検査、放射線は難化が予想されています。歯は過去2年の志願者数が増加した反動で、前年比が減少。上位者も少なく易化を予想しています。薬は創薬、臨床薬ともに増加。例年同様の難易を予想しています。後期では、理系では全学部の出願予定者が増加しています。予想ボーダーがアップしている学科もありますが、昨年易化したものが一昨年並みに戻る系統が多いです。前期は個別試験の結果で十分に逆転できるので積極的なチャレンジが大切です。文は教科バランスが重要、法は英語で差がつくなど学部系統別で戦略が違ってくるのでしっかりと対策を講じていきましょう。
- ・**阪大**の出願予定者数は今年度も増加しています。昨年度は京大からの志望を変更した受験生が多かったこと、共通テスト重視配点の神大への変更が難しかったことなどにより増加しましたが、今年度は共通テストの平均点アップが要因になっていると考えられています。ボーダーは上昇することが予想されますが、経済、法で3%程度アップなど極端な難化には至らない見込みです。文系は外国語を除く全学部で、理系は基礎工、薬が出願予定者を増やしています。
- ・**神大**の経済、経営についての動向ですが、模試段階と同じく、隔年現象により経済に人気が集まり、選抜方式別でも全て増加傾向です。経営は共通テストの高得点者および個別試験の高得点者からそれぞれ募集人員の約30%を優先的に選抜するので、ボーダー得点率に届かなかった受験生も個別試験での逆転が可能です。国際人間科学と理系は前年並みの出願予定者が集まっています。
- ・**東工大**は大学全体の出願予定者数は、河合塾では前年比104%と微増となっています。学院別の動向では、物質理工学院をのぞく全学院で出願予定者が増加しており、特に環境・社会理工学院は前年比120と増加率が高いです。参考までに予想ボーダーは情報理工学院が83%と最も高く、生命理工学院77%が一番低い予想ですが、第1段階選抜のみの利用となっています。
- ・**一橋**は今年度の各模試では全学部で志願者が増加していましたが、共通テスト後の出願予定者も変わらず河合塾では前年比108と増加しています。学部別では法が前年比112、経済が前年比118で増加した一方、社会が前年比96、商学部前年比91と減少しています。
- ・**北大**は前期の出願予定者数は、秋の模試からの変化は小さいです。文系はやや減少、理系は前年並みと予想されています。後期は文系、理系ともにやや増加傾向を示しています。

(次ページへつづく)

- ・**東北**は模試段階では減少傾向を示していましたが、出願予定者は前年並みとなりました。人気の高い工は全体の出願予定者が河合塾で前年比 106%と増加しています。得点分布では前年比べて得点率 80%前後で大きく増えており、ボーダー予想は 77%~79%と高くなっています。
- ・**名大**は大学全体では志願者が増加していますが、文系は減少傾向であり、これは理系からの出願予定者の増加が要因です。特に工学部の女子の出願予定者が増加しています。また、情報学部コンピューター科学科のボーダー得点率が医学科を除くと最も高いと見込んでいます。出願予定者は前年から 2 割増加しており、系統人気が続いていることを示しています。

## ② 医学部医学科

- ・今年模試段階から高い人気の系統でしたが、出願予定者も河合塾で前年比 111 と増えており、厳しい入試となりそうです。ただし、近年は隔年現象がより顕著になっているので、出願時には慎重な検討が必要です。山口大は昨年度の反動で志願者が増加することが濃厚とみられるので個別試験に向けて十分な準備が必要ですが、極端にレベルが上がるとは予想されていません。

## 2 地区動向について

### ① 国立大学+北九州市立大(前期日程を中心に)

- ・**岡山大**の前期は法で模試段階と同様に志願者が増加していますが、ボーダーは河合塾が 70%と予想しています。経済、教育も出願予定者数は増えていますが、特に教育で予想ボーダー72%近辺が厚くなっているため、注意が必要です。理系では理の数学が前年比 138 と出願予定者数の増加が大きいです。全体的に後期廃止の影響が広島、香川、愛媛の出願に及ぼしている印象です。
- ・**広島大**の前期の文は模試段階で志願者が少なく低調でしたが、出願予定数は前年並みとなっており、成績分布も上位にシフトしています。総合科学は文理ともに出願予定者が減少していますが、特に理系からの出願予定者が河合塾で前年比 57 と減少しています。法は出願予定者が前年比 75 ですが、成績上位の分布に変化はなくボーダーも 72%を予想しています。経済は出願予定者が増加、成績上位層も厚く、厳しい入試となりそうです。工学特別コースは隔年現象となっており、今年度は前年比 227 と倍増しています。生物生産は前後期とも出願予定者数が大幅に増えていません。歯は前期で前年比 63 と大きく減少、ボーダーも易化予想ですが、逆に後期は前年比 139 と増えています。看護は文理とも出願予定者は昨年並み、ボーダーも変化は見られません。情報科学は理系型受験が前後期ともに出願予定者が前年比 150 を超えており難化が予想されています。
- ・**山口大**の前期は人文の出願予定者がベネッセ・河合塾ともに前年比 92 と少ないですが、上位が厚く分布しており、個別入試の国語、英語の十分な準備が必要です。国際総合の志望動向は前年並みですが、ボーダーは昨年よりやや上がる見込みです。経済は昨年と同じような分布ですが、後期の出願予定者がベネッセで前年比 152 と大きく増加しているため小論文対策が重要になると考えられます。教育は小学校を中心に学部全体では受験生が集まっていますが、募集単位別で大差があるので、今後の動きに注意が必要です。工は昨年度の反動でほとんどの学科で志願者は増加していますが、ボーダーが大きく上昇することはなさそうです。後期は社会建設工が出願予定者前年比 182 と増加しています。医学部の看護は出願予定者が減少していますがボーダーは大きく変わらない予想なので、英語の十分な準備が必要です。
- ・**鳥取大**の地域学部は国際、地域、人間の 3 学科体制です。前年比はベネッセで国際 77、地域 88、人間形成 106 となっていますが、ボーダーは国際 60%、地域 62%、人間 58%を予想しています。工の社会システムは前年比 65、ボーダー53%と低くなっています。看護は前年比 115 と人気で島根大の看護の前年比 69 と対照的です。
- ・**島根大**の前期の法文学部言語文化は河合塾で出願予定者数が前年比 109 と増加していますが、ボーダー予想は 61%と下がっています。また、教育の学校教育 I 類はベネッセの前年比が 65 と模試段階と同じく低い状況です。
- ・**徳島大**の前期の理工は模試段階では前年比が高かったですが、出願予定者はベネッセで前年比 106 と少し落ち着いた印象です。看護は前年比 74、倍率も 1 倍台と低く、ボーダーも 58~59%なので、遠方ですが山大看護の変更先として視野に入れておくといいと思います。

(次ページへつづく)

- ・**香川大**は予想通り、後期で岡山大の後期廃止の影響で、ベネッセの前年比で法 131、経済 111、教育小学校 128 など軒並み高くなっています。
- ・**愛媛大**は法文が模試段階から志願者が集まらず、河合塾の前年比が 79 といずれも低く、ボーダーも易化予想です。低倍率が続く工ですがベネッセの前年比 88 と低調なまま推移しています。
- ・**九州工大**は前期の工で志願者が河合塾で I 類以外は前年並みかやや減少。ベネッセは I 類、V 類以外は前年並みとなっています。前期の定員 32 名のマテリアル宇宙系の V 類が河合塾は前年比 98、ベネッセは前年比 115 と分かれていますので、注意が必要です。なお、出願予定者は河合塾が 52 名、ベネッセが 62 名です。今後に向けては I 類の動きに注意が必要です。情報工は河合塾、ベネッセともに全体での前年比 100 となっています。模試段階では 93 とやや減少傾向でしたが、数学の平均点上昇により揺り戻しがあったと推測されます。広島大、神戸大との併願を考えている生徒も増加しており、九大からの流入もあるので、気を引き締めて準備してください。
- ・**福岡教育大**は学部改組により過去のデータが使えず、判断が難しいですが、現段階では初等教育教員養成では小学校教育が人気で、理数教育プログラムは定員よりも少ない出願予定となっています。中学校は昨年度と基本的に同じ募集方法で大きな変化は今のところありません。
- ・**北九州市立大**は文、外国語、法ともにベネッセの前年比が 70 台と非常に低調です。また、ボーダーも易化予想となっていますので、判定が良くなくてもチャンスは大いにあります。経済、国際環境工は前年比、ボーダーともに大きな変化は見られません。
- ・**佐賀大**は前期の経済が河合塾の前年比で 76 を示し、大分、鹿児島などとともに経済系統が低調となっています。理工は後期で上位層が厚くなっていますので注意してください。
- ・**長崎大**の経済は配点変更により個別試験配点が統一されました。志望者も模試より集まっていますが、共通テストの配点が 450 点、個別入試の配点が 320 点と個別の比率が高く、合否混在ゾーンも広いので個別勝負になると予想されます。情報データ科学は前年比がベネッセ 75、河合塾 69 と昨年の反動が見られます。低倍率が続いている工学部ですが、共通テスト重視型 a 方式に志望者が集まっています。
- ・**熊本大**の文は過去 2 年と比べて志望者は増えています。工はやはり情報系統の人気が高く、情報電気工においてベネッセが前年比 114 と増加しています。後期は九大との併願予定者が多いですが、今年度は増加傾向が予想されているので、前期九大志願者が後期は九工大、熊大どちらに出願するか十分に見極める必要があります。メディカル系は模試段階では低調でしたが、医学科は上位層が厚くなっています。逆に薬は今のところ上位層が昨年より減少していますが、熊大は地元志向が強く、今後、医学部からの変更がありえるので注意してください。
- ・**大分大**は経済の前期では個別が数学もしくは英語の 1 教科選択でベネッセのボーダー得点率が 56%と、長崎大の 2 教科受験ボーダー得点率 58%より低くチャンスが大きいことが分かります。同じく経済の後期は今年度から定員 20 名分が新設の医学部先進医療科学科に回った関係で少し出願が難しくなりました。理工学部は大きく改組しましたが、ベネッセ、河合塾とも前年比が 70 と出願予定者が大幅に減少し易化傾向となっています。
- ・**宮崎大**では工学部が前期日程 240 名、後期日程 90 名を一括で募集していますが、前年比はベネッセで 77 と低調です。合否混在ゾーンが広く、関東出身者からの進学者が多いのが特徴です。
- ・**鹿児島大**は法文の前期が地域・経済コース以外で微減、理学部の数理情報科学は上位層が厚くなっています。水産国際食料は定員が 7 名と少ないですが、出願志望者が河合塾 1 名、ベネッセ 3 名です。
- ・**山口東京理科大**の薬は定員減少の関係でボーダーは上昇すると予想されています。ベネッセで前年比 92、ボーダー得点率 79%を予想しています。

以上ですが、紙面の都合で前回と同じくなかなか上手く伝えられていない部分がたくさんありますが、掲載以外の大学や細かい点、不明な点は遠慮なく私まで質問をしてください。

また、過去問など進路指導室に見当たらない欲しいもの、知りたいことがあれば、こちらも気軽に声をかけてください。いずれにしても残りの貴重な時間を大切にいきましょう。

(文責・松村)